

工藤 保雄議員



## Q 施政方針について

### A 復旧復興を最優先 村民中心のむらづくり

**工藤議員**  
問題が山積するなか、就任から、半年が経過した。時期尚早かもしれないが、自己評価は、特に、公約である出張村長室の利用状況や成果をどう考えているか。

答できないものは担当課と協議をして結果を伝えるようにしている。住民との対話は、公約であり今後も続

**村長**

村政運営の基本は、住民との対話だと考え、4つのことに取組んできた。

- ① 行政区ごとの出張座談会
- ② 昼食後の職員との意見交換会
- ③ 議会最終日に傍聴の方々との懇談会
- ④ 出張村長室。

朝の8時半から10時までの1時間半、公務がない場合、対応している。利用状況は、少ない時は5〜6名、多い時には15名を超える。相談内容は、要望や質問があり、即答できるものと、即答できないものは担当課と協議をして結果を伝えるようにしている。



出張村長室のようす

けるが、相談件数が減ってきているので、30分短縮して9時半までの1時間にしたい。自己評価については、村民、議員の評価に委ねたい。今後とも復旧復興を最優先に、村民中心の村づくりを進めて行きたい。

**工藤議員**

柔軟な対応をされているが、公約に縛られ過ぎず、より有効な時間の使い方を御一考いただきたい。

農業が元気な村づくりもともと土地利用型の農業を推進する必要がある。農地を保全する為に、熊本県が、農業分野で外国人を活用する国家戦略特区の申請を内閣府に提出した。こういう事業の情報を常に掴みながら、時流に乗り遅れないよう検討して願いたい。

## Q 農業が元気な村づくりの為の農地保全は

### A 6次産業化による村のブランド化

ると考えるが、農地保全の施策は考えているのか。

**村長**

豊富な水や、良質な堆肥を活用して、米、そば、大豆の生産を奨励し、6次産業化による村のブランド化を進めたい。

荒廃農地、耕作放棄地、有害鳥獣対策等を検討し、農業的利用価値や農業生産力の減退を防ぐ為、農業委員会等と協力していく。

**工藤議員**

子育て支援については、既に答弁があったので割愛するが、幼保一元化など南阿蘇村型の支援の確立を要望したい。

農業が元気な村づくりも掲げているが、その基本は農地の保全が大前提だ。先達から受けついで優良農地が将来、守られるか危惧している。

また、担い手不足の対応として初期投資の少ない純然たる農業後継者への支援の強化をお願いしたい。

更に、熊本県が、農業分野で外国人を活用する国家戦略特区の申請を内閣府に提出した。こういう事業の情報を常に掴みながら、時流に乗り遅れないよう検討して願いたい。

**村長**  
そばの振興に対して、コンバイン購入の助成は行ったが、乾燥調整の遅れで品質が落ちると指摘を受けた。作業の効率化や品質向上を検討し、「儲かるそば」を指して取組みたい。

**工藤議員**  
イターン。Uターンだけではなく、地元の後継者育成は同感である。今後、具体的な支援策を考えたい。

外国人の受け入れには、現状も調べながら、慎重に対応したい。